中学部研究

研究テーマ

「授業改善を重ね よりよい指導と学習評価の充実を目指して」

～「国語科」に焦点を当てて～

研究目標

①育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って作成した評価規準について、評価方法や評価内容における妥当性を検証する。

②該当教科の単元の内容・目標、指導実践を複数の教師間で共有し、多面的・多角的な視点から授業改善を図る。

研究方法

①学習評価における検討

　国語科において、内容のまとまりと関連付けた目標と評価規準により、評価する際の方法や内容について整理する。

②授業評価における検討

　目標、支援方法・活動内容が適切だったかを動画の視聴や振り返り記録を通して、授業改善を行う。

今年度は「評価について迫る」

- ３つのグループごとに、丁寧な実態把握をそれぞれに行い個別の指導計画を見直し、評価規準を共通理解した。

↓

学習目標の評価等を検証することで、目標の再設定、授業内容の見直しにもつながるのではないか。

研究経過

- 実態把握
- 身につけさせたい力の明確化

↓

- 目標・評価規準の設定
- 授業の活動内容の整理（動画視聴）
- 目標・評価規準の再設定

国語の授業における動画をいくつか撮影し、授業の様子を見ながら「中学部研究検討シート」を用いて検討を進めた。

「中学部研究検討シート」

１年グループ

	話し合った内容
目標	身に付けさせたい力、学習指導要領との照らし合わせについて 〈知識・技能〉 本人の写っている写真を頼りに動詞の意味を伝えることができる。
	〈思考・判断・表現〉 写真を見て、動詞を口にして行動する。
	〈学びに向かう力・人間性〉 自分で選んだ写真を見ながら、自ら相手に伝えたり、行動したりしようとする。
活動内容	本人の写った動作の写真を見て、何をしているかや、どんな動きかを教師に伝える。
支援方法	正しい動詞を導き出せなかった場合には、文字を見せて、教師が音声の師範をし復唱させる。
評価規準	評価の根拠になった言動 「眠る」に対して、「眠い」や「ドアを開ける」に対して「ドアを開けて」など、動詞を正しい意味で発言している。 写真を頼りに、その動きを行動に移している。 自分で選んだ写真を見ながら、自ら相手に伝えたり、行動したりしようとしている。 ・「眠る」「開ける」「運ぶ」の写真を見て自分なりの言葉で正しく伝えられたら◎。 ・「走る」「電気を消す」「寝る」等の写真を見たり、教師の言葉で行動に移すことができたら◎。 ・自分で写真を選んで言葉で伝えたり、行動で表したりできたら◎。
次に進むための指導等	「眠る」や「ドアを開ける」を今は本人なりの言葉で表現しているので、教師が師範した通りに表現することができるようになること。 知識として本人に入っていない「運ぶ」や「読む」等を、動詞のつながりや名詞についても学習していく必要がある。動詞や名詞の語彙を増やしながら、２語文を作っていく。 「走る」では「人が走る」はつながっているが、「のりものが走る」の意味がつながっているかを検証していきたい。

３年グループ

	話し合った内容
目標	身に付けさせたい力、学習指導要領との照らし合わせについて 〈知識・技能〉 ① 言葉の意味を知り、様子を表す語句の量を増やす。 ② 主語、述語、修飾語で構成する文を書く。
	〈思考・判断・表現〉 ① 絵や写真を見て、新しい単語の意味を伝える。 ② 主語、述語、修飾語を使って様子を文で表す。
	〈学びに向かう力・人間性〉 主語、述語、修飾語の役割がわかり、積極的に文の中で使おうとしている。
活動内容	学習プリント「だれが、なにを、どうした」 ・染み抜きをしている洗濯の写真を見ながら、選択肢【しみぬき、がんばった、かていか】 ・音楽発表会で歌を歌っている写真を見ながら、「〇〇が、〇〇を、〇〇」選択肢【[illegible]と、わにになっておどろう、たのしくうたった】 ⇒主語、述語、修飾語を使って、文を作成することができた。 主語を「[illegible]と」ではなく、「ぼく」を使ったほうが混乱はないだろう。 ・美術で作ったお面をかぶっている写真を見ながら、選択肢【びじゅつ、くつった、わらっているおめん】「〇〇で、〇〇を、〇〇」 ⇒主語、述語、修飾語において、詳細に形容しない言葉を選択肢とするよい。 ・ぶんカードを使用しての学習。カードの絵を見ながら、様子を考えさせ、口頭で文を表現させる。 ・言葉の意味の学習。プリントにある写真を見ながら、言葉を考える。耕運機の写真⇒はたけを「たがやす」など、語彙を増やす学習も行った。 ・ぶんカードを使用して、主語は誰かを考えさせた。繰り返し、動作をしているのは誰かを、教師の後に続いいて、発語させた。 ・体育で【できた、カエル、たいいく】「〇〇で、〇〇が、〇〇」 ・体育で【[illegible]てつぼう、つばめをした】⇒間違えずにできた。
支援方法	・主語、述語、修飾語において、詳細に形容しない言葉を選択肢にするよい。 ・発問においては、本生のこだわりなどに配慮する必要がある。 ・主語、述語 ・本人は、語彙が少ないので、何を言われているのか、何を問われているのか、分かっていないことがある。 ・学習プリントに正答シートを作成しておき、本人にフィードバックさせるとよい。 ⇒間違えたことを本人は、認めたがらないこともある。 ・主語：ぼく、[illegible]と等を使えるように学習を繰り返すようにする。 ・カタカナは、読めるようにさせたいが、今回は、文を作ることを目標に学習を展開していく。
評価規準	評価の根拠になった言動 〈知識・技能〉 ・正しい文の作り方を知る。 ◎評価は難しい。⇒〇 〈思考・判断〉 ・学校生活において自分が経験したことを正しい言葉の順序で表している。 ⇒〇 〈学びに向かう力・人間性〉 ・文の作り方がわかり、日常生活で使おうとしている。 ⇒△評価である。
次に進むための指導等	・日常生活で時間がかかってしまう様子も見られる。 ・評価を◎にしていくために、どうしていけばよいのか。⇒今すぐではないが、今後は、物を変えて繰り返しの学習を展開していく。やり方を違う方向で、学習展開してみる。 ・国語、数学の学習においては、本人の中で、正解なのか分かっていないので、達成感を感じていない。 ⇒達成感を感じられることは、大切であるので、担当以外にも何かしらの評価をしてもらうとよい。 できたという気持ちを抱いたり、実感させたりできるとよい。 ・学習全般への意欲を高いので、宿題などもよく取り組んでいる。 ※どうしたら、学習にのせてあげられるのかが、重要となる。

１年生　対象生徒Bさんの事例

- ①生徒の実態

情緒面	・学習に対して意欲的であり、期待感をもって取り組むことができる。 ・特定の好きな本や活動があるが、声かけを受けて気持ちの調整をすることができる。
認知面	・身近な人や好きなものの名前の文字を覚え、５０音表から選んで並べることができる。 ・自分の興味のある動物名などはよく知っているが、日常生活言語は身に付いていないものが多い。 ・絵を見て発声していることが多くある。 ・自分にとってのマイナスイメージのものは全て「怖い」という表現になる。
対人面	・自分のしたいことを身ぶりサインや発声、カードで伝えることができる。＊非常に限定されている。 ・人とのやりとりを好み、自分から教師や友だちとかかわる。

②国語科で身に付けさせたい力・目標・評価規準

国語科で身に付けさせたい力		
感情を表す言葉を知り、自分の気持ちを相手に伝えられる力		
観点	目　標	評価規準
知 技	感情や気持ちを表現する言葉を正しく使う。	感情や気持ちを表現する言葉を正しく使っている。 ＊「やめて」「楽しい」「痛い」「かゆい」「ねむい」など感情を表現する言葉を正しく使い、自分の気持ちを伝えられたら◎。
思判表	簡単な指示に応じた行動を取ったり、自分から2語文で表現したりする力を養う。	簡単な指示に応じた行動を取ったり、自分から2語文で表現したりしている。 ＊「電気 つける」「ドア 開ける」「ごはん 食べる」などの2語文を理解し、行動できていたら◎。
学び（評）主体	相手の質問が大まかに分かり、自ら考えを相手に伝えたり、行動したりしようとする。	相手の質問が大まかに分かり、自ら考えを相手に伝えたり、行動したりしようとしている。 ＊相手の質問が大まかに分かり、自ら考えを相手に伝えたり、行動したりしようとしていたら◎。

単元計画表の作成

『書くこと』や『学習プリント』は難しい実態。「気持ちを正しく伝えることに課題がある」ことが分かり、『言葉を構成しよう！』という内容を中心に単元計画表を作成した。

＜単元計画表＞

教科等（ｸﾞﾙｰﾌﾟ）	国語	単元名	話を聞こう、話してみよう！	指導時期 指導時数	９月～１２月 ４１時間
単元目標	知識及び技能		感情や気持ちを表現する言葉を正しく使う。		
	思考力・判断力・表現力等		簡単な説明や指示に応じた行動を取ったり、自分から２語文で表現したりする。		
	学びに向かう力・人間性等		相手の質問が大まかに分かり、自ら相手に伝えたり、行動したりしようとする。		
評価規準	知識・技能		「やめて」「楽しい」「かゆい」「ねむい」など感情や気持ちを表現する言葉を正しく使っている。		
	思考・判断・表現		「電気をつける」「ドアを開ける」「ごはんを食べる」などの２語文を理解し、行動している。		
	主体的に学習に取り組む態度		相手の質問を正しく解釈し、自分の考えを相手に伝えたり、行動したりしようとしている。		

総時数	ねらい	主な学習内容･学習活動	評価場面(方法)と評価規準
４１時間	「やめて」「楽しい」「かゆい」「ねむい」など感情を表現す言葉を正しく使い、自分の気持ちを表している。	・絵カードやタブレット端末を使用し、感情に関わる表現を教師と確認する。 ・日常生活で体験したことを写真や画像で再度確認する。(痛い×虫に刺されてかゆい) ・身振りを使って感情を表現する。	知言葉と事物が一致している。 思今の思いや要求を表す言葉を考え、絵カードを提示している。身振りを使って感情を自ら表現している。
	「電気をつける」「ドアを開ける」「ごはんを食べる」などの２語文を理解し、行動することができる力を養う。	・絵カードやタブレット端末を使用し動作に関わるカードを確認する。 ・絵カードと動作のマッチング ・指示カードを見て行動する。	知　絵カードと動作のマッチングができている。 態指示カードを見て自ら行動している。
	相手の質問が大まかに分かり、自ら自分の考えを相手に伝えたり、行動したりしようとする。	・イラストと文字カードを当てはめる枠を用意し、自分の考えを伝える。	知言葉で伝える良さに気づいている。思話しかけに注目し、応じて答えている。相手に気持ちを伝えるために意図的に言葉やイラストや文字カードを使用して伝えている。
・単元全体の**指導に生かす評価**（児童生徒の学習状況を把握し、それを基に学習を充実させていくための評価）			

学習評価の検討①

- 少ない語彙の中でも、「おいしい」「いや」は正しく表現できた。
- 動作の絵カード（本人の気持ち）と言葉の結びつきが曖昧な状況であった。
- 「うるさい」「かゆい」等の表現を適正な場面で使うことが出来ていなかった。

⇒マイナスなイメージを伴うものは全て「こわい」

＜検討内容及び課題＞

- 感情を表す言葉だけでなく、「自分の気持ちを伝える」ことに重点を置いたほうがよいのではないか。

＊「感情や気持ちの言葉」は難しい

- 絵カードの絵より、本人が動作をしているカードの方が、定着につながるのではないか。
- どのようにして、言葉を増やしていくかが課題。

目標と評価規準の再設定

〇目標
〈知識・技能〉
体験したことを絵カードや写真を見て選び、「ねる」や「あける」など、身近で簡単な動詞を正しい意味で捉える。
〈思考・判断・表現〉
簡単な説明や指示に応じた行動を取ったり、自分から2語文で表現したりする。
〈学びに向かう力・人間性〉
相手の質問が大まかに分かり、自ら相手に伝えたり、行動したりしようとする。

〇評価規準
〈知識・技能〉
・「ねむい」に対して、「ねる」や、「あけて」に対して「あける」など、動詞を正しい意味で捉えている。
〈思考・判断・表現〉
・簡単な説明や指示に応じた行動を取ったり、自分で選んだ写真を見ながら自分から2語文で表現したりしている。
〈主体的に学習に取り組む態度〉
相手の質問が大まかに分かり、自ら相手に伝えたり、行動したりしている。

学習評価の検討②

・虫に刺された箇所を見て、「かゆい」と言うことができた。また、「痛い」と言う言葉を聞いて傷のある足を見ることもあった。このように、体験したことをその場で言語化していく経験を積んでいくことができた。

- 「いたい」「ねる」などの言葉が、自分の写真を見ることで言えるようになってきている。

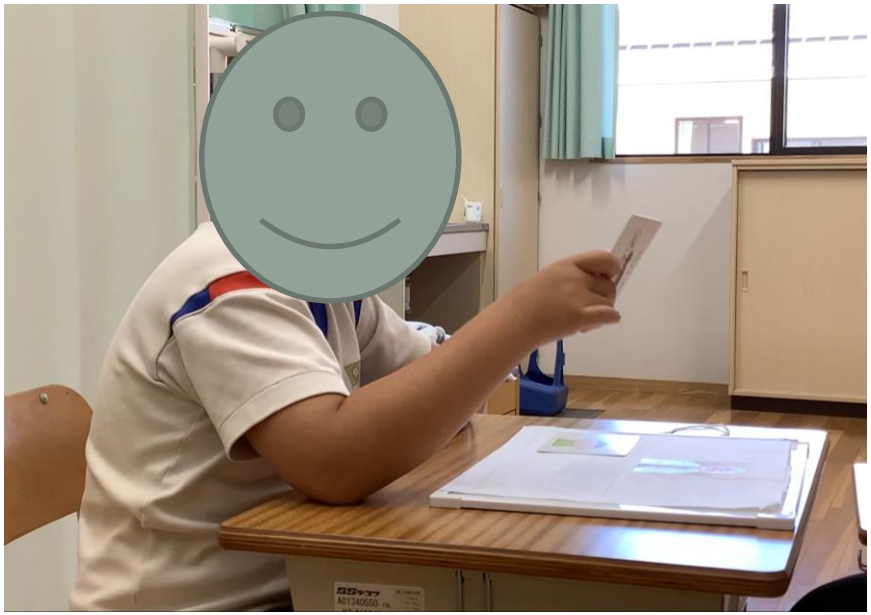
＜検討内容及び課題＞

- 実体験と結びつけることが本生には大事になる。（言葉を育てていく。）経験したことを生活の中で的確に使用できるかが課題となる。教師が本生の動作を言語化し、繰り返し活用していく指導が重要になる。

・生活の中でも使っていく場面を設定していく。

学習評価の検討を受けて…

日常生活の中で動作を教員が言語化する。
本人の言葉から動詞へとつなげる。（眠い→寝る等）
動詞や名詞の語彙を増やしながら2語文を作っていく。



考察

目標や評価規準を見直したことにより、以下のことに気付くことができた。

- 感情の表現だけでなく、まずは身近なものの名前や、簡単な動作を表す言葉を、日常生活の場面をイメージさせながら身に付けさせることが大切である。（イラストではなく本人の映った写真を使用）
- 日常生活の指導など、教育活動の中で関連付けながら指導をしていくことが重要である。
- 本生の実態から、言葉だけでなく、身振りでも表現することで、相手に伝わる経験を積み、やりとりをすることへの意欲へとつなげる。

学部研究の成果と課題

（1）学習評価

①実態把握を丁寧に行い、評価規準を定める
②評価規準を具体的な行動で示す
③自立活動や日常生活の指導と関連付ける

（2）授業評価

　教師の授業改善の支援の手立てや教材について、授業者による話し合いを行い、授業改善を図っていく。反省は、略案をもとに話し合いをしたり、Formsの入力による集計をしたりして、必要な視点を分析し、授業改善を図る。授業者は、授業改善案をもとに授業担当者と効率よく教師間で言葉を交わせる工夫をしていくことが大切である。

学部研究の成果と課題

評価を実施するにあたり、教師間で授業の目標や評価規準を単に共有するだけではなく、個別の指導計画の単元の目標や評価規準を常に見える化していく等、日々の工夫を行い、学習評価したことに留まらず、生徒が学習によって「できるようになったこと」を日々の生活の中で般化できるような支援を行っていくことが求められる。